

京都のつばさ

日本航空の不当解雇撤回勝利をめざす京都共闘会議

第 32 号

2016 年 7 月 1 日

京都府京都市中京区壬生仙念

町 30-2 ラポール京都 5F

京都総評気付

TEL075-801-2308

FAX075-812-4149

E-mail:sinamu2002@yahoo.co.jp

JAL 不当解雇事件を参加者に社長逆宣伝、インサイダー取引事件に社長謝罪、稲盛名誉会長欠席・クレサンペールの失敗や社員勤続年数問題などはぐらかし

<京セラ株主総会の報告>

2016 年 6 月 24 日、京都市伏見区の京セラ本社ビル最上階・20 階のホールにて京セラ株主総会が開かれ、3 年連続出席した（20 数年前の神奈川工場の争議の時も出席はしたが）。午前 10 時に総会は開会されたが、その 1 時間前からは地域の“日本航空の不当解雇撤回をめざす京都支援共闘会議”の仲間と近畿や東京から参加した JAL 不当解雇撤回原告団が、「JAL 稲盛和夫名誉顧問（京セラ創業者）は直接交渉を行え」などの横断幕や「JAL 不当解雇撤回」などのノボリ旗を掲げて京セラ百メートルビル前に居並ぶ。

たくさんの株主や 通行人が「稲盛経営哲学の本質」を暴露するビラを受け取り、早々と用意したビラはなくなってしまう。京都支援共闘の梶川憲世話人（京都総評議長）から主催者挨拶を受け、JAL 客乗原告団の鈴木圭子副団長から「稲盛名誉顧問と直接会って、断固勝利を勝ち取る」という力強い決意を受けた。

地元でたくさんの企業の不当労働行為と闘う JMITU の労組役員や、山科区の iWai コーポレーションで 300 日近く籠城ストを貫徹して、不当解雇撤回を闘うきょうとユニオンの仲間から連帯挨拶も受けた。

株主も大いに関心を示す 抗議・宣伝行動も終了し、京セラ株主総会が開会する。例によって司会兼執行議長兼事業報告兼議案提案が山口悟郎社長よりなされ、質疑に入った。社長は、「去年は日本航空の問題が出されたが、日本航空の労使問題については別会社の問題であるのでくれぐれも発言をお断りする。質問は短くひとり 2 点まで。会社役員個人の誹謗中傷はしてならない」という条件をくどくど述べた。おかげで、知らなかった人間まで含めて何か京セラは JAL の労使問題と関係があると気づかせ、受け取った労組のビラをカバンから取り出す人も出てきた。すごい逆宣伝を社長はしてくれた。



私は株主席・縦 16 列の 8 列目くらい、横には中ほどに座り

(裏に続く)

(横は 20 人の席、320 席・満席)、議長である山口社長のほぼまん前で「議長！」と最初から挙手したが、全く当たらない。

だいたいってから挙手する人もいなくなり、しぶしぶ(社長にしては)私が当てられた。

私は、「インサイダー取引をした幹部社員が出たが、長年京セラフィロソフィーという崇高な利他の精神とかいう、稲盛経営哲学を学んだ幹部社員から 10 数万円を不当に得るための人間が出て来るのか、『インサイダー取引規定』とかを徹底したとかしないとかいう技術的な問題ではないはずだ。もう一つは、『今回から稲盛名誉会長は来ない』というが、民進党京都選挙区の事前応援演説会に蹴上の都ホテルまで元気に出席する稲盛氏が、自社である年一回の私たちの株主総会に来ないのはなぜか？」と二つの質問を行った。

これに社長答えて曰く、「インサイダー取引問題にはただただ謝罪するしかありません。稲盛は 84 歳で、その日その日の体調で、『きょうはやめとくわ』ということでございました。今後ともその日の体調ということでも出たりでなかったりです」と。

その後、JAL 不当解雇撤回 CA 原告団の副団長でもある鈴木圭子さんが発言し、「銀座に(京セラが直営する人口宝石の)クレサンベール店があるがすごく入りにくい。なぜか?クレサンベール販売店はあとどれくらいあり、今後の事業展開の計画は?もう一点は、議案書などを見ると京セラ社員の勤続年数が 17.8 年とあり、短くはないか?」と二点の質問。



社長からは、「クレサンベール直営販売店は銀座と日航プリンセルホテル京都内の二か所です、いかにもこの事業がバブルの産物による失敗事業で、しかし稲盛和夫直々の発案であるかしてやめるにやめれない事業であるようで、歯切れが無茶苦茶悪いものであった。勤続年数は担当役員に代わり、「他の同業種の会社とあまり変わらない。この頃は女性もかなり活躍している」との「答弁」で、隣席の女性たちが「答えになってないわな」と会話していた。

外国人株主も通訳交え質問したりで正午近くまでの総会となった。

一昨年は稲盛名誉会長が私の JAL 不当解雇問題の質問に直接答弁、昨年は壇上のしつらえを変えてその前年のようにさっと山口社長の脇の発言席に稲盛が出て来れないようにしてあった。そこまでの通路がやたら狭く、稲盛が発言しようと思っても物理的に出てこれなくしていた。「全く塞げないので、かなり体を折り曲げたら可能ではあるが。山口社長以下の会社役員・スタッフが発言を本当に阻止したいと苦心惨憺したのは、私に対してではなく、まさか羽交い絞めするわけにいかない人間に対してではなかったのだろうか。」と私は昨年このレポートに書いたが、「いずれにしても、株主の当然の権利を不当に踏みじり、最低の資本主義的民主主義、ブルジョア民主主義の体裁さえもなりふり構わず捨て去って、封建領主よろしく問答無用で押し切るのが京セラ流である。」と JAL 問題に質問した私を屈強な若手社員 6~7 名で羽交い絞めして私を追い出した事件の報告は相当応えたようである。今年は御大が欠席してくれて社長以下、胸をなでおろしたのであろう。

昨日の JAL の副操縦士逮捕による欠航、そして 2 件の故障による計 1 日 3 便の欠航(JAL フィロソフィー)、京セラ幹部によるインサイダー取引事件(京セラフィロソフィー)といい、稲盛経営哲学も老朽化してかなり陰りを帯びてきたようだ。

(2016.6.29JAL 闘争京都共闘・事務局次長・稲村守)